

私は以前から、なぜ地球が生命にあふれる惑星に成り得たのかについて興味があり、生命の起源という問題に対して現実的な解を得るためには科学的にどのようなアプローチをすれば良いのかと最近になってようやく考えるようになりました。そこで、この問題について研究されている方たちはそれぞれどのように考えているのか、それらから今後の自身の研究方向のヒントでも得られればと思い、今学会に参加することにしました。

科学的アプローチに際してはそもそも生命の発生に関して何が必要条件となるのかを設定することが重要になると思います(例えば、私が研究している惑星科学の分野で言えば表層の液体の水の存在がそのひとつに挙げられます)が、今学会では、その必要条件がたくさんあるがゆえに多岐にわたるアプローチが存在することを改めて感じました。と同時に、議論が発散しかねないこの状況でのまとまった討論はとても勉強になりました。また、今学会で新たに設けられた口頭発表後のポスターセッションでは普段関わりの少ない分野の方々ともお話しができ、とても良い機会となりました。

最後に今学会でお世話になりました河原林先生をはじめとした九州大学の皆様、旅費をご援助下さった本学会に感謝致します。ありがとうございました。

生命の起原および進化学会は、分野が異なる研究者と議論ができる大変有意義な学会です。今年度も大変有意義な3日間となりました。従来の口頭発表に加え行ったポスター発表では多くの研究者と議論でき大変勉強になりました。特に、*Deinococcus* 属が持つカロテノイドが放射線耐性に寄与している研究を *vitro* の系で行った研究、アライメントをモデルから改善した研究、初期地球と火星で隕石衝突の際に生成される大気組成を計算から求めた研究やアーキアのゲノム情報から進化を探る研究は非常に面白く勉強になりました。今後の私の研究において重要なヒントを得ることが出来ました。

学会に参加して、様々な分野の研究者が異なるアプローチを用いて生命の起源を解き明かす研究が行われていることについて重要な知見を得ることが出来ました。しかし、化学物質から初期の生命体へはどのような経路をたどったのか、また初期の生命体が現在の複雑な生命体へどのようにして進化していったのか、謎は深まるばかりです。さらに本研究では、宇宙での生命の移動の可能性(パンスペルミア仮説)の検証を主題としています。宇宙環境で生命が移動している話しがどのようにして地球での生命の起源や進化に関わって行くかをもっと思案しなくてはいけないと思いました。生命の起源や、初期生命の起源の研究をすすめていくうえで最も重要なことは、今どのような研究が行われているかを良く知り、自分が行っている研究の立ち位置をよく考え、研究を進めて行くことだと思いました。そして、現在は点正在している生命の起源と進化に関わる研究が線で繋がるような研究をする必要性を強く感じました。

本学会には学部3年生から参加し、博士後期課程3年まで参加してきました。学会ではみなさまに叱咤激励していただき、大変ありがとうございました。これからも精進して行きたいと思います。

最後に、旅費補助を頂き、実りある学会活動を行うことができました。大会関係者と運営に関わってくれた学生の皆様および学会関係者の皆様に厚御礼申し上げます。